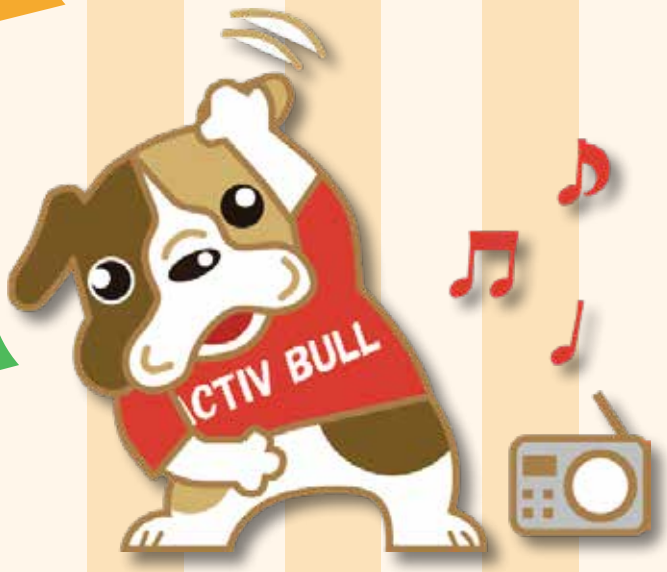
東京の介護って すばらしい グランプリ 2025

イベント部門作品集



【主催】東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会　情報・広報室

東京の介護ってすばらしいグランプリとは？

（主催：東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会 情報・広報室）

多様な場面にスポットをあて、介護の魅力を広く PR する、年に一度のグランプリイベントです！
介護の魅力を伝えたい人なら、どなたでも応募 OK！ 優秀作品には豪華な賞金・賞品をご用意しております。また受賞作品は、東京都高齢者福祉施設協議会のもつ様々なメディア媒体で公表、PR に使わせていただいています。

東京都高齢者福祉施設協議会
マスコットキャラクター
「アクティブル」

【グランプリ特設サイト】https://koureikyo.com/

目　次

最優秀賞

やさしさ探検隊！
ふくし × ゴミ拾いで地域のヒーローになろう！
社会福祉法人泉陽会　人材対策室　中島 千幸 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

優 秀 賞

第三回 西新井多世代交流まつり
社会福祉法人西新井だいわ会
地域包括支援センター西新井　大西 健太郎 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

そうだ、銭湯に行こう！
合同会社ケアプランよし
ケアプランよし 経堂地区認知症アクションチーム　吉本 亮子 ・・・・・・・・・・ 8

入　　賞

地域連携活動プログラム「チタプポ体操」×「お楽しみカフェ」
～地域とともに新しい健康文化を創出する第一歩～
社会福祉法人台東区社会福祉事業団
やなか高齢者在宅サービスセンター　中村 正美 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

開園記念祭「まぐろカーニバル」
社会福祉法人亀鶴会　特別養護老人ホーム神明園　菊田 鉄平 ・・・・・・・・ 11

第 10 回八国山フリーマーケット
社会福祉法人白十字会
白十字ホーム　八国山フリーマーケット実行委員会・・・・・・・・・・・・・・・ 12

東京の介護って
すばらしい
グランプリ
2025

イベント部門

最優秀賞

2025
最優秀賞

社会福祉法人泉陽会　人材対策室　中島 千幸

やさしさ探検隊！

ふくし × ゴミ拾いで地域のヒーローになろう！

「車いすに乗って街に出るって、どんな感覚なのだろう」「目の見えない人、耳の聞こえない人って、どうやって街に出るのだろう」この企画は「もしも自分が誰かのサポートを必要とする身体になったら？」を実際に体験しながら、あそび感覚で学ぶことが出来ます。また、高齢者や障碍者が街で困っていた時、助け方が分かるように、声をかける勇気を持てるように、車いすの操作方法や、白杖をついている方への声のかけ方、困っている人の気持ちの寄り添い方などを、専門職が教えます。さらには、世代を越えた人たちとコミュニケーションをとる経験や地域の清掃をする経験、介護の仕事が身近になる経験など、様々な経験が出来る地域交流イベントです。親子参加も大歓迎の企画となっております。

【目的】

・地域で困っている人がいたら、助けてあげられる人になってほしい・介護の仕事が将来の夢の、選択肢の１つになる・地域交流、多世代交流の機会

【期待される効果】

・相手の立場に立って、気持ちを想像できる・思いやりのある気持ちを持つ大切さに気付く・困っている人に手を差し伸べる、声をかける勇気が出る・感じたことや感謝を言葉にする経験・福祉用具の取扱い方法が分かる、障碍のある方の介助方法が分かる・介護施設に来る、介護職に関わることで、介護の仕事が身近になる

【参加対象】

地域の子どもたち、学生や地域住民ボランティア（子どもたちの福祉体験サポート、見守り）

【安全対策】

ボランティア保険加入、子どもたち見守り職員の配置

プログラム

10:00 ～ 10:10	挨拶・イベント説明
10:10 ～ 10:30	福祉用具や介助方法の説明（福祉用具：車いす、白杖、高齢者体験キット）（介助方法：車いす操作、視覚障碍者への対応、高齢者への対応）
10:30 ～ 10:45	福祉体験練習（施設や公園の中で、使い方や介助の練習をする）
10:45 ～ 11:15	福祉体験をしながら地域のゴミ拾い
11:15 ～ 11:30	感想シェア・記念撮影・ゴミ拾いのお礼

東京の介護って
すばらしい
グランプリ
2025

イベント部門

優秀賞

社会福祉法人西新井だいわ会　地域包括支援センター西新井　大西 健太郎

第三回 西新井多世代交流まつり

お祭りを実施することは地域活性化の起爆剤であること、の前提に立ち企画段階からあえてスケールを大きくオープンにして、運営側となる協力団体が入りやすくなる工夫をした。実行委員会の定例の会議では、誰もが主体的関われることとつながりを強められるように、全ての参加者に詳細を呈した実施要綱の配布や打合せ以外の内容でも盛り上がれるようにしている。祭りの実施場所を公園とし出入り自由な空間で時間に拘束されないスケジュールであるため、当日は多世代の誰もが集まりやすい内容となっている。広報はデザイナー作製によるチラシポスターで、関係者が随所に広めるのと同時にホウカツの持つ情報網と実行委員であるポスティング会社の協力を得て多方面に告知している。公園、保健所、消防、助成金の申請には町会からの支援が欠かせず、実行委員のホウカツを事務局として町会との連携を図り、実行員会と町会の共同開催という方法を取っている。第三回目である今回より会場を公園とカフェのほかに病院駐車場の３会場に広げ、アクティビティー･ものづくり関連が５ブース、福祉･医療関連が６ブース、フード関連が８ブース、販売が３ブース、アーティストによる演奏発表が７人、トゥクトゥク乗車体験と出展ブースが年々増えている。

【目的と期待される効果】

幼児から高齢者まで幅広く参加できるお祭りを実施し、地域の人々の交流および結びつきを深めるとともに、開催者どうしもつながれる関係つくりを目的とする。多彩な出店者がイベントを成功に導く協働体験によって、事業所や町会や学校など地域の中での新たなつながりが生じる。そのつながりが源となって、地域活動の活性化の礎となる。ボランティアに参加した者は、自らの役割を果たすことで自信や自己肯定感を得ることができる。

【参加対象】

誰でも参加可能

【安全対策】

駐輪場整理や駐車場安全管理及び警備専属スタッフを配置している

合同会社ケアプランよし　ケアプランよし 経堂地区認知症アクションチーム　吉本 亮子

そうだ、銭湯に行こう！

認知症アクションチームの活動計画を立てる際、メンバーであり認知症当事者より、「温泉に行きたい！」と発言があった。その方は、お風呂に入る事に抵抗を示し、日々お子さんと言い合いになっている方であった。そんな当事者の意欲を実現すべく、計画を練る事が始まった。①会場探し：地域活動に積極的で認知症や介護への理解がある銭湯の紹介があった。世田谷区高齢者入浴券助成が利用できるので、参加者へ周知する。②福祉移動支援の利用：徒歩圏外の方も参加できるよう、利用料を押さえて協力してもらえる福祉移動支援を探した結果、1 人往復 500 円での送迎が可能となった。③参加者への周知：同地域で開催されているケアマネカフェで告知し、チラシを配布する。また、民生委員や町会関係者へもお知らせし、参加者を募った。介助者、アクションチームメンバーの他、企画への協力者を募集し、介護福祉士の資格を持つボランティアが協力してくれている。中には、担当ケアマネジャーが介護保険サービスでの訪問介護利用ができるよう計画書に盛り込んでいる方もいる。

【目的と期待される効果】

認知症状のある方を介護しているとぶつかる壁があり、その中の一つに入浴がある。自宅でのお風呂に入るのが困難になった方、銭湯通いができなくなった方、デイサービスでの入浴介助に抵抗がある方等々利用者さんとご家族の悩みが、お風呂に入る楽しみに変わることを目的としている。昨今、街の銭湯が減っているのも地域課題の一つでもある。歩いて行かれなくなったといって、銭湯通いを諦めた方もいる。風呂にゆっくり入りたい！街の銭湯文化を維持したい！そんな重なりあったニーズを解決する糸口になる事を期待し、活動を続けている

【参加対象】

利用者及び利用者家族

【安全対策】

介護タクシーの協力、福祉用具事業所が滑り止めマット提供

【イベント企画に込められた想い】

我が地域で立ち上げた認知症アクションチームの理念です「前文省略～認知症になっても、周りの人の理解や声かけ、ちょっとした手助けがあれば、地域で暮らしていけます。認知症の人が暮らしやすい街は、誰もが暮らしやすい街なのです。認知症でも、認知症でなくても、誰もが安心して暮らせる地域にできたらいいな。そんな願いを実現するために立ち上げたチームです、誰でも参加していただけますので、ご興味のある方は」是非お声かけください。

東京の介護って
すばらしい
グランプリ
2025

イベント部門

入賞

社会福祉法人台東区社会福祉事業団　やなか高齢者在宅サービスセンター　中村 正美

地域連携活動プログラム「チタプポ体操」×「お楽しみカフェ」

～地域とともに新しい健康文化を創出する第一歩～

毎月定期開催している地域公益事業「やなかまサロン」において、参加者が気軽に集い楽しめる場として本プログラムを実施する。第一部では、日本の伝統芸能である能の小鼓を土台とした「チタプポ体操」を行う。小鼓の音を土台に謡に合わせて「チ・タ・プ・ポ」と発声することで、口腔筋や呼吸機能を鍛えると同時に、文化体験として楽しめる点が特徴である。従来の口腔体操と違う点は、本体操は音楽的要素と歴史的背景を取り入れることで、趣味や学びの感覚で継続しやすくなるように工夫している。第二部では「お楽しみカフェ」を開催し、体操後に自然と高まった食欲を満たしながら、参加者同士や地域の方、活動を支えるメンバーとの交流を深める。ピザなど普段一人では食べにくい料理をシェアすることで、食の楽しさとコミュニティづくりを同時に実現する。こうした交流は外出や対話のきっかけとなり、孤立防止や地域のつながりづくりに寄与する。また、体操の後に食事を楽しむ体験を通じて「口腔機能を保つことで食がより楽しめる」ことを実感でき、フレイル予防や行動変容につながることを狙いとしている。

【目的と期待される効果】

地域の課題である、引きこもりや孤独死、社会的孤立を予防するため、参加者が自然に交流し仲間づくりができる「憩いの場」にすることを目的とする。本プログラムは、小鼓の音を土台に謡に合わせて声を出す「チタプポ体操」を文化体験として楽しみ、体操後に参加者同士が食事を囲む「お楽しみカフェ」を組み合わせることで、継続性を高める取り組みである。腹式呼吸による発声が自然に食欲を促し、食を楽しむ力と口腔機能維持のつながりを実感できる。非日常の食事や地域交流が外出の動機となり、孤立防止・コミュニティ形成・フレイル予防に寄与するとともに、地域と共に創る新たなプログラムの先行事例となることを期待する。

【参加対象】

台東区在住の 65 歳以上に方を対象

【安全対策】

参加者が安心して参加できるように、施設主催のイベントとして企画し実施。災害対策及び感染症対策は施設の指針に基づき対応。地域公益活動の一環として取り組み、損害賠償が発生した場合は施設の保険で対応。運営経費については、助成事業を申請。

社会福祉法人亀鶴会　特別養護老人ホーム神明園　菊田 鉄平

開園記念祭「まぐろカーニバル」

神明園開園記念日は 11 月 11 日に設定されている。2015 年、15 周年イベントの機に、入居者様から多く希望が聞かれる「おいしい刺身をたくさん食べたい」というニーズにこたえること、地域交流イベントとしての機能も含め初回を企画し、園外から 150 名ほどをお迎えし大変好評をいただいた。以後、毎年の恒例イベントとして同時期に開催し、年々参加者も多くなり解体するマグロも大型化（最大 73kg）していった。2019 年には近隣住民、関係小中学校の生徒など多数の参加があり園外参加者が 200 名を優に超える状況となったが、コロナ禍になり園外からの参加を規制した形に縮小。2024 年に入居者様ご家族と近隣特養招待のみで再開し 2025 年 11 月 8 日、第 9 回（外部招待ありの回数）を開催。それまで解体から実食を 1F 地域交流スペースで行っていたが、園内導線や混雑緩和を重視し、会場は 1F 地域交流スペースをメインとし、4F（入居フロア）にサテライト会場を展開。57kgと 36kgのまぐろをそれぞれで解体。1F はご家族参加のある入居者様とご家族のスペース、4F を他施設の入居者様及び職員、ご家族来園のない入居者様のスペースとし、解体から実食までをたのしんでいただいた。ご家族 100 名強、近隣特養からの参加 20 名ほどが来園し盛況な開催となった。本イベント開催にあたり、法人にいただく寄付額も年々増加、第 9 回においては 80 万円を超える寄付をいただけるまでになった。第 9 回における提供魚種：生めばちまぐろ 57kg と 36kgの 2 尾（解体提供）冷凍めばちまぐろ柵どり済み 6kg（主に解体待ち時間に提供用）ぶり約 11kg（解体提供）まだい約 4kg ×2 尾（解体提供）サーモンフィレ冷凍 5kg（お好み提供用）

【目的と期待される効果】

神明園の理念である“『たのしみ』『くらし』そして～『よろこび』”の具現化の一例としてイベントを位置づけ、入居者様のみならずそのご家族を含めた QOL 担保を図る・入居者様から要望の多い「刺身を食べたい」というニーズに対する職員としての取り組み・入居者様とご家族がともに食事をする時間の創設・神明園での生活を選んでいただいたことへの満足度向上・職員が入居者様の感じる喜びを実感できる場の創出・職員のチームワーク向上・職員の帰属意識醸成・近隣施設および神明園に関わる方々との職員交流

【参加対象】

利用者及び利用者家族 近隣施設入居者及び職員

社会福祉法人白十字会　白十字ホーム　八国山フリーマーケット実行委員会

第 10 回八国山フリーマーケット

企画内容：参加登録者による物品販売、展示、PR の場 30 の個人・団体が出店します。地域密着型のフリーマーケットとして主に白十字ホームの近隣住民の方が出店されています。お買い物に来る方も近隣住民の方が多く、地域住民同士の交流の場となっています。主な出店内容：近隣住民による手作り作品の販売、薬局による骨密度測定・健康相談、白十字会・地域包括支援センター・社会福祉協議会等の団体によるＰＲ及び相談、障害者施設による自主製作品の販売・アトラクション。高齢、障害、児童の分野を超えたつながりを作るため、幅広い方々に出演していただいています。様々な分野の方たちとイベントを共催することで、連帯感や顔の見える関係を構築することで日頃からの連携のとりやすさにもつながっています。保育園園児によるエイサー踊り、障害者施設利用者によるバンド演奏、白十字ホーム利用者と地域ボランティアサークルによる演奏、中学校吹奏楽部による演奏、介護老人保健施設機能訓練指導員による介護予防体操・キッチンカーの出店。今年からキッチンカーの出店を依頼していて、ホットドッグとワッフルのキッチンカーが出店します。参加される地域住民の方たちの楽しみが増えたり、参加者の増加につながることを期待しています。主な参加者：地域に根付いたイベントとして定着しています。コロナでお休みする期間もありましたが、再開後も毎年概ね 500 名程の方にご来場いただいています。白十字ホーム利用者、白十字ホーム利用者家族、白十字ホームボランティア、社会福祉法人白十字会事業所職員、近隣住民、近隣小学校生徒・保護者、近隣障害者施設利用者・家族、近隣保育園園児・保護者、近隣中学校生徒・保護者、シルバー人材センター関係者、民生委員・福祉協力員関係者、学生ボランティア

【目的と期待される効果】

世代に関係なく、単身世帯や二人世帯が増加している中で、地域で暮らしていながら「孤立」している状況が社会的な関心を強めています。また、地域の中には新たな住民も増えています。世代間交流の機会を増やすこと、多世代 (高齢者だけでなく若い世代も) が共に見守り支え合って、地域で暮らせる町づくりが重視されています。白十字ホームを含む白十字会事業所及び近隣の障害者施設や保育園と地域住民との交流に留まらず、近隣住民相互の交流の機会をつくるきっかけとします。地域の福祉文化を充実する大切な機会とし、「赤ちゃんからお年寄りまで安心して暮らし続けることができる町づくり」に寄与することを目指して開催します。

【参加対象】

誰でも参加可能

イベント部門審査員

中浜 崇之

株式会社 Salud 代表取締役／東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会情報・広報室　アドバイザー

介護福祉士として特養やデイサービスで現場職や管理者として勤務。また NPO 法人 Ubdobe でも、理事として自治体や企業とともにイベント・デザイン等の企画・ディレクションを行う。

村井 祐一

田園調布学園大学 人間福祉学部学部長・教授。東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会情報・広報室 アドバイザー。社会福祉・保育領域などにおける情報マネジメント技術の向上について研究を行う。

審査委員長　水野 敬生

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会情報・広報室長、公益社団法人 全国老人福祉施設協議会 元広報委員長、社会福祉法人一誠会 常務理事・統括施設長。

東京の介護って
すばらしい
グランプリ
2025

東京都高齢者福祉施設協議会とは？

東京都高齢者施設協議会とは、～社会福祉法人東京都社会福祉協議会（東社協）における業種別部会・連絡会の一つであり、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンターを会員とする組織です（会員約 1200 事業所）。
東京の高齢者福祉の発展と、福祉サービスの向上を目指して、業種別・職種別・テーマ別など、さまざまな委員会活動を通して、研修会の企画や調査研究、提言活動、ネットワークづくり等に取り組んでいます。

【主　　催】 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会（情報・広報室）
【事 務 局】 社会福祉法人東京都社会福祉協議会 福祉部高齢担当
メール　kourei@tcsw.tvac.or.jp
URL　https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/

【企画制作】 株式会社アイフィス
メール　tokyokaigo-gp@ifys.jp